



工業技術センター設立10周年を迎えて

鹿児島県工業技術センター

所長 廣末英晴

当工業技術センターは1987年12月1日に設立され、今年で10年になります。これを記念して、10周年記念事業を以下のように計画しています。また新年度に行う研究プロジェクト、国際交流についても主なものを併せてご紹介し、皆様方のご理解とご支援をお願いしたいと存じます。

1 10周年記念事業

工業技術センター設立後10年になるのを記念して、①10周年記念誌の発刊、②研究成果発表会及び所内一般公開の実施、③技術立県会議及びシンポジウムの開催を計画しております。このうち、技術立県会議及びシンポジウムについては、本県における科学技術推進の基本的考え及び基本構想を企業及び県民へ広く普及させることを目的に、通産省工業技術院の院長において頂き、本県知事を始め関係各位との話し合い、更には企業の方々を中心とする県民へ講演・討論をしていただく予定にしています。また、所内一般公開時には現在産学官連携研究開発施設として建設中の”鹿児島システム技術開発センター”も完成する予定であり、皆様方に見ただけのものご期待しています。

2 主なプロジェクト

今年度推進する主なプロジェクトとしては2つあります。一つは、県単独で遂行している”中小断面集成材の製造システムの開発”であります。これは、伐採期を迎えている県内のスギ中目材を住宅用構造材として有効利用を図るためのもので、本年度が最終年度となります。これまでの研究成果を生かし、本年度で総まとめを行い、成果の移転を図りたいと考えているところです。

次に今年度からスタートする大型のプロジェクトとして中小企業庁の地域産学官共同研究事業で行う”強誘電体インテリジェント材料の研究開発”があります。これは先端材料に不可欠な機能素子材料となる強誘電体セラミックス材料について、シリコン基盤上に同材料の薄膜を形成させることによるインテリジェント材料を開発し、これを各種センサーとして応用することを試みるものです。本プロジェクトは複数の県内企業と共同で推進することになっています。

これら以外にも、工業基盤技術研究事業として

12テーマ、県単独の研究事業として14テーマを計画しており、地域資源の高度活用からバイオテクノロジー、エレクトロニクス、新素材まで幅広く取り組む予定であります。

3 国際交流

現在は、メガコンペティションの時代、あるいはボーダレスの時代であると言われていています。情報網が発達するにつれて、場所に関係なく如何に価値のある情報をそこから発信できるかまた入手できるかが極めて重要になってきています。

このためにも生きた情報の収集は国内外から絶えず行う必要があります。国際交流及びこのための資質向上は欠かせない時代になってきています。当工業技術センターもこの一環として海外からの研修生を毎年長期に数名受け入れたり、また研究員が調査あるいは学会発表のために短期に出張したりしてきましたが、今年度は関係各位のご努力により、木材工業部から1名オーストラリアのCSIRO（国立科学技術研究機構）に”樹木成分の総合的利用技術に関する研究”のテーマで1年間留学をすることになりました。このような長期留学、短期の海外出張あるいは著名な研究者の招へいが今後ますます重要になってきます。中小企業の方々の技術開発、技術力の向上を目指す当センターの研究員が国際感覚を身につけ、中小企業の方々の国際交流を支援する見地からもこれらの制度の益々の充実を図りたいと考えております。

以上、平成9年度に遂行すべき主な点のみをご紹介しましたが、これ以外にも平成8年度後半に工業技術センターへの設置が認められました”知的所有権センター”があります。これは、県内中小企業の方々の特許公報類の閲覧のみならず技術開発及び支援に係る事業を強化することを目的として設置されたものであります。併せてご紹介し、皆様方の積極的な活用をお願いいたします。